

# インドネシア ジャワにおける Hantu について： Nyai Ratu Kidul の概略と変貌

宮崎 裕子

キーワード インドネシア、ジャワ、幽霊、精霊、

## はじめに

あやしいという感情は、我々が日常と認識できない奇異で不可思議な事象、我々が理解の範疇を超える事象に対して喚起される感情である。我々はそのあやしいモノゴトを怪異と名付け、状況に応じて化け物、精霊、幽霊、妖怪などと呼んでいる。そして、そのあやしいモノゴトすなわち怪異に対して、我々は時には好奇心をもって、時には恐怖を感じて、時には畏怖を抱いて、そして時には敵対心をもって対峙している。

本稿は、これらあやしいモノゴトに対して人々が抱く恐怖という感情の根底について分析を試みようとするものである。何をあやしいと認識するのか、それは様々な要因によって大きく異なっている。その事例を考察していくと、何がそのときの社会にとって怪異や奇異とみなされるのか明らかになるであろう。

今回その分析にインドネシアのジャワ島を選択した。インドネシア語で幽霊の類を Hantu (ハントウ) というが、Hantu は英語の概念である Specter や Ghost、或いは日本語の妖怪、幽霊といった概念よりもはるかに広い意味をもつ。特にジャワ島ではその Hantu が多種多様に存在し、又人々の日常生活に大きく関わっている。Hantu の代表的な例が、Nyai Ratu Kidul (ニヤイ ラトゥ キドゥル) と Kuntilanak (クンティラナック) といわれるいずれも女性の霊である。

本論文の主題となる Nyai Ratu Kidul は、インドネシアジャワ島の南海に棲んでいる強力な精霊である。この女神への信仰は古くから続いており王国や人々を守護者として信仰の対象であった。今でもジョグジャカルタでは王宮自ら女神への儀礼を定期的に行っている。しかしながら現代はその姿が変貌しつつある。ときには悪霊とみなされ、ときには死と関連づけられ、或いは Ratu

Kidul をイスラムに取り込もうとする動きも認められる。その過程を歴史、伝承、メディアニュースそして映画という手段をもって分析し、最後に Ratu Kidul に対する恐怖とは何かについて言及する。

## 1. Nyai Ratu Kidul について

### 1. 1. Ratu Kidul の概要

Ratu Kidul はインドネシア ジャワ島の南海に棲む女性の Siluman (スリマン) である。Siluman とは川や海に棲む自然精霊で、Ratu Kidul は Siluman でも最も強い精霊であろう。Ratu Kidul への信仰は南海に面したジャワ島南海岸部で最も強い。16世紀末からジョグジャカルタを中心に発達したマタラム (Mataram) という国家の代々のスルタン (王) 達は、Ratu Kidul と交流し結婚することで加護を得ていたと言われている。そしてその伝統は、マタラムが滅亡した後も後継のスルタン達に引き継がれている。

ある伝承によると水中から上陸し姿を現す際、Ratu Kidul は馬車に乗って武装した軍に守られながら王宮を来訪する (中島1993:23) と言われており、その姿は限られた人物 (即ちスルタン) しか直接見ることはできない。しかしながら、多くのジャワの人々は Ratu Kidul は若くて魅力的のある女性であると評している (Brakel 1997:266)。恐らくインドネシアを代表とする著名な画家がイマジネーションをもって描かれた Ratu Kidul 像が評判を呼び、若い女性として描かれた Ratu Kidul が一般的な外観として社会的に認識されるようになったと思われる。この絵画は複写が作成され、様々な場所に掲げられているが<sup>1</sup>、オリジナルはスカルノ元大統領が収集し、今は State Palace に保存されている。

それでは、直接 Ratu Kidul を見ることでできない人々はどのように Ratu Kidul を感知するのであろうか。あるジャワの伝承によると、Ratu Kidul の存

---

1 一例がジャワ島南西海岸にあるサムドラ・ビーチ・ホテルである。このホテルの308号室は、Ratu Kidul の安息の間として Ratu Kidul 像の複写画が掲げられており、礼拝者たちのためのプレイヤールームとなっている (Sochaczewski 2010)。

在は、視覚的な出現によってではなく、音による (Resink 1997) 或いは香りを含む突風で認識されている (Strassler 2014:107)。

Ratu Kidul は緑色を好むと言われ、確かに Ratu Kidul のいくつかの“肖像画”や“イメージ像”をインターネットで見ると、彼女は緑色のジャワ伝統服を常に着用しているようである (図1)。なぜ Ratu Kidul が緑を好むのかその理由は未だはっきりしない。仮説として以下の2つが挙げられよう。

まず、イスラム教の影響である。インドネシアのイスラム研究者である Mark Woodward によると、緑はイスラム教、特にジャワ・スーフィズムでは聖なる色と認識されている (Woodward 2010:189)。そして、緑色の服がシンボルマークとなっているスーフィズムの預言者がいるが、その名を Al-Khidr 又は Khidr (アラビア語の緑を示す) という。コーランでは、彼は海を守護しモーゼに秘密の智慧を授ける役目を果たす。Ratu Kidul の名はこの預言者の名が由来となっているかは不明だが、イスラム教伝来と共に Ratu Kidul 像に影響を及ぼした可能性は大いにあるだろう。

第二に、Ratu Kidul の形態に由来とする仮説である。Ratu Kidul は通常海の底にあるという王宮が住処で、海で何らかの異変が発生した場合すばやく簡単に動くことができるように、Ratu Kidul の半身は蛇の尾になっているという (Fischer, J. 1994:105)。即ち、Ratu Kidul の真の姿は蛇の体をしていると推測できる。インドネシアには全身が緑色である蛇 (例えばマムシ、ニシキヘビやムチヘビ) が多数生息しており、この説を裏付けることができよう。

蛇は神話伝承や有史以前時代の宗教において非常に重要なポジションにあり、生命と豊穡を司る女性神であった。ジャワ語文学の研究者 Pigeaud と歴史研究者 De Graaf の共著によると、Ratu Kidul はかつてこの地域広範囲で信仰され



図1 Ratu Kidul

[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kanjeng\\_Ratu\\_Kidul.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Kanjeng_Ratu_Kidul.jpg)

ていた先史時代の宗教の一種であったことが示唆されている (De Graaf and Pigeaud 1974: 222)。先行研究でも Wessing (1997a) や Jordaán (1984) によって Ratu Kidul は東南アジアにおける蛇信仰が基盤となっていた可能性が指摘されており、De Graaf と Pigeaud の指摘にも蛇というシンボルが根底にあったと考えられる。

ジャワはイスラム教が主流となっているが Ratu Kidul への信仰は絶えることがなく現在まで続いている。それは地理的な要因が大きいと思われる。筆者は2005年と2018年にジャワ南海岸にあるパラントゥリティス海岸を訪れた。パラントゥリティス海岸はジョグジャカルタに最も近い海岸でありインド洋に面している。そして、ジャワ南海の海底にある Ratu Kidul の王宮に最も近いといわれ、Ratu Kidul への奉納も行われている由緒正しい且つ神聖な場所である。しかし、神聖な場所とはいえ、「荒ぶる海」(土屋 2008) と評されるように、筆者が海岸を訪れたときも目前に広がる大海原から打ち寄せる波は激しい水しぶきを上げていた。この荒ぶる海こそ Ratu Kidul を象徴しているようである。荒い波故に外国からの貿易船は通ることがなく、その結果ジャワ島南海に接する地域に大きな港が建設されることはなかった。外世界と直接接触することがなかった Ratu Kidul への信仰とは、それを妨げる外的要因がなかった故にまさに“外界から隔絶したジャワ世界固有の内なる”(青山 2005:43) 信仰であるといえよう。

## 1. 2. Ratu Kidul という名前の意味

ジャワ語で Ratu は女王、Kidul は南を意味し、即ち Ratu Kidul という名は訳すると、「南の女王」となる (Wessing 1997b:98)。女性に対する尊称 Nyi / Nyai をつけられていることが多い。ただし、この南海の女王の名前に正式名称はなくそれ故統一もされておらず、人によって Roro Kidul (南の王女) とも Lala Kidu (南の老女) とも呼ばれている。様々な民間伝承をもち、インド仏教の時代から現在まで人々の生活に深く根付いており、その性格もイスラムやイスラム以前の宗教要因を含み複雑化している。

女性に対する尊称 Nyi /Nyai や高貴な人物に対する尊称 Kanjeng というタイトル (Koentjaraningrat 1985a:289) を付けて呼ばれることも多い<sup>2</sup>。Nyai Ratu Kidul であれ Kanjeng Ratu Kidul であれ、意味は高貴な南の女王となり人々の畏敬の念を伺わせる。更に、ジャワの支配階級の人々は特別な念を込めて Kanjeng Ratu Kidul Kencanasari とも呼ぶ (Florida 1992:21)。Kencanasari とは黄金の華という意味で、人々の Ratu Kidul への景仰を示している。

南海の女王は Roro Kidul と一般的に最もよく呼ばれており、インターネットで Ratu Kidul で検索すると約349,000件がヒットし、Roro Kidul を検索すると、約684,000件がヒットする。Roro は古ジャワ語で王女や未婚の若い女性を意味しているという (Jordaan 1984:104)。従って、Roro Kidul は、直訳すると「南の王女」となり、Roro Kidul と Ratu Kidul では名前の意味が若干異なることになる<sup>3</sup>。

Roro Kidul と Ratu Kidul。これらの異なる名前の特徴を調査してみると、一般的に、特に多くの英文や日本文献では、2体に違いは見られず、従って若干意味は違っていても同一の女神を指しているとは推定できる。しかしながら、Ratu Kidul と Roro Kidul は別の精霊であると定義している文献もある。例えば、アメリカの人類学者 Wessing によると、Ratu Kidul は、千年の間ジャワ南海に君臨している女王であり、一方 Roro Kidul は彼女に忠実な首相 (patih) であるという (Wessing 1997a: 337)<sup>4</sup>。なお、今回を含み以降の筆者が記述する論文では、南洋の女王について述べるという目的のため Ratu Kidul という標記で統一する。

---

2 Kanjeng は元来中国語の「官人」である。中国の影響もあることを伺わせる。

3 数少ない例として、Lala Kidul がある。インドネシアの文化人類学者である Koentjaraningrat や Geertz が用いている (Koentjaraningrat 1985b:422, Geertz 1960: 26)。Koentjaraningrat によると Lara とは年老いた女性、更に Zoetmulder (1982: 1510) は、Lala は病氣、悲嘆、辛苦の意味を持つと指摘している。従って Lala Kidul とは「南の年老いた女王」或いは「南の辛苦」という意味を持つ精霊となる。

4 ジャワのフォークアートに詳しい Joseph Fischer は別見解をもつ。Ratu Kidul には補佐として2人の patih がいるが、J.Fischer の記述によるといずれも Roro Kidul とは別の名前の精霊である (Fischer, J 1994:108)。

### 1. 3. ジョグジャカルタと Ratu Kidul

ジャワ南海岸にほど近い古都ジョグジャカルタを訪れると、マタラム王国の栄華の名残を建築物や舞踏などの文化に垣間見ることができる。ジョグジャカルタは日本の京都と姉妹都市になっており、京都と同様に碁盤の目のように道が規則正しく横と縦に並んで入っている。この都市にマタラム国の象徴であった王宮が現存している。

現在のジョグジャカルタの王宮は、スルタンが住んでいながらも部分的に一般公開されており、多くの観光客を集めている。王宮は北を向いて建てられ、南北に王宮を挟む形で公共広場がある。又南北に走る縦線の軸は大通りとなっていて、それぞれ Jl.Kaliurang と Jl.Parangturitit という。Jl.Kaliurang を北に直進すればムラピ山に到達し、Jl.Parangturitit をそのまま南下すれば海辺すなわちパラントゥリティス海岸に着くようになっている (Anwar 2010:31)。

ジャワを含め東南アジアの宇宙観では海と山、天と地、男と女という二項対立が基本となっている (大林1985:70-76)。必ずしも天と山が男性原理を表し、地や海が女性原理を表しているとは限らないが、ジョグジャカルタの二方位観によると、世界は北と南の2つに分かれており、北はムラピ山と天上界、南はジャワ南海と根の国である。ムラピ山には山の精霊 Kajiman である男神 Sapu Jagad が棲んでおり、Sapu Jagad と南海に棲む女神 Ratu Kidul がジョグジャカルタを守護していると言われている。又、二つを結ぶ縦線を軸にして中央にジョグジャカルタの王宮がありスルタンがいる (Balgos 2013: 184)。

ジョグジャカルタの人々にとって、ムラピ山とジャワ南海は聖なる地域である。ジョグジャカルタが中心を成すこの直線が聖なるパワーを生み出すとされており、山々の噴火或いは地震、もしくは海からやってくる津波はこのパワーバランスが破壊されることを示している。

## 2. 王権と Ratu Kidul

### 2. 1. 王宮と Ratu Kidul

マタラムのスルタンたちと Ratu Kidul は結びつきを示す二つの代表的な事

例を挙げる。まずは Taman Sari である。Taman Sari とは1758年から1769年にかけ、ジョグジャカルタの Hamengku Buono I (ハメンク・ブウォノ 1世) が建築した大規模な複合施設である。インドネシア史の研究者 M.C. Ricklefs は、Taman Sari は王権の正当性と王権の拡大を図るという野望を顕著に表している (Ricklefs 1974:84-85) と述べているが、この施設は確かに保養及び娯楽を目的とした一大ファシリティであり且つ建物の外観は Ratu Kidul の海底宮殿を模っていたという豪華なものであった<sup>5</sup>。

Taman Sari で特に注目すべき設備は地下トンネルにある。このファシリティ自体が Ratu Kidul に捧げたものだと思われるのは、外観の他に、この地下トンネルが Ratu Kidul の実際の海底宮殿に繋がっているとされていることによる。トンネルには小階段で囲まれた踊り場のような窪みが設けられている。窪みには常に脚に浸かるほどの水が貼られてあり、ここでスルタンと Ratu Kidul は定期的に邂逅し婚姻関係を持っていた。更に Ratu Kidul 自身の宮殿が災難に襲われた際、この精霊が Taman Sari に一時的に避難していたという言い伝えもある (Ricklefs 1974:85)。カンボジアのアンコールトムに、クメール王朝時代に建設された塔があるが、この塔のなかでクメールの代々の王は每晚蛇の女神と婚姻関係を持ったという神話がある (Briggs 1951)。Ratu Kidul が、まさしくこのクメール神話のジャワバージョンといってもいいだろう。

次の事例は Labuhan である。Labuh は投げ入れるという意味であり、年に一度ジョグジャカルタのスルタン (現在は Hamengku Buwono X) の誕生日に王宮が行う奉納を指す。この儀礼はパラントゥリティス海岸とムラピ山で同時に行われ、王宮の人々によって供物が捧げられるものである。王宮にとって、ジョグジャカルタを取り囲む北のムラピ山と南のジャワ南海がいかにかに聖なる場所であるかを語る儀礼である<sup>6</sup>。

---

5 残念ながら Taman Sri は1812年英国軍による攻撃と1867年に発生した地震により、大部分の建物が破壊してしまった。現在いくつかの建物は再築されたが、完成当時の豪奢さを感じることはできない。

6 毎年開催される儀礼は Labuhan Alit という。8年毎に大祭 Labuhan Ageng が開催される際は、Senopati の修行場も含めて奉納が4か所で実施される (Negoro 2001:94)。

パラントゥリティス海岸で実施される Labuhan は、マタラム王国の始祖セノパティの子孫であるスルタンと Ratu Kidul との間の神聖な関係を祝いましたその伝統を守るため実施されており、18世紀の終わりから始まったと言われる (Kumar 2000:92-93)<sup>7</sup>。この儀礼により、スルタンとその領地は Ratu Kidul の加護と恩寵を授与されることができる。いわば、毎年実施されるジャワ南海支配者とのセキュリティ契約の更新であり、Labuhan はそのエージェント機能を担っているといえよう。

2005年に筆者はその儀礼に立ち会う機会に恵まれた。早朝にも関わらずその日は多くの見物客が海岸で儀礼の始まりを待っていた。朝8時になると大勢の正装をした王宮の人々が、竹製の筏に載せた供物を担いでパラントゥリティス海岸に到着した。彼らは、パラントゥリティス海岸にあるバランクスモという場所ですまず祈りを捧げた。バランクスモは砂浜の上に設置された石壁で囲まれた50平米ほどの広さをもつ広場である。海側に内側に開く木製の両扉があり、その扉は通常閉じられているが、管理人がいるときや Labuhan の時は解放される。広場の中に大きめの岩が二つ並んでいるのが、ジャワ年代記によれば、この石壁に囲まれた場所はマタラム国創始者 Senopati と Ratu Kidul が出会った特別なスポットであり、神聖な場所とされる。

Labuhan において王宮の人々は実に様々な供物を捧げる。例えば、下衣、女性用胸当て、布、金銭、香料、香水、ボディローション、ウエストバンド、白布、香料、ドライフラワー、スルトンの毛髪、スルトンの爪、スルトンが使用した植物性敷物もしくは王家の宝物を包む布、スルトンが使用した傘等 (Negoro 2001:96-7) などである。これらはスルトンの肉体の象徴であり、Ratu Kidul へとその臣下への奉納に分かれている。構成品なほほぼ同じだが、Ratu Kidul への奉納物は特別な柄と色彩の布を含んでいる (Brakel 1997:267)。

祈りの後、王宮の人々はあずまやに集まって坐り供物を前に祝詞と共に神聖

---

7 ジャワ史研究者である Ann Kumar によると、オランダ勢力の東インド会社が儀礼費用を出資したという (Kumar 2000:93)。王権との不必要な紛争を避ける目的もあろうが、ジャワ文化継続に専念させ王権を形骸化させるスキームもあったのではないかとと思われる。



な祈祷を行った。この祈祷によってスルタンの精神がスルタンの爪や髪に宿り、次に Ratu Kidul の霊力がそれらに効力を及ぼすのである。Labuhan における供物は、スルタンと Ratu Kidul を精神的に結び付けるためのツールなのであろう。長い祈祷が終わると人々は供物を筏を担いで海に運び、歩いて海に深く入り供物を波間に流し始めた。

一般人は筆者を含め黙って儀式のプロセスを遠くから見物していた。ところが波間に沈んだ奉納物が次々と浮き上がると、筆者の周囲の人々は突然動き出した。我先に争って海に殺到したのである。筏の一部を持ち帰ってきた人がいたので尋ねてみたところ、海に浮かぶ供物に触る或いは持つて帰ることで健康、金運、安寧などの恩恵がある、という。その供物を南海が受領した時点で、超自然的なパワー（即ち神徳や利益）が発生するのではないかと推測する。尚、Covid-19によりほぼ全ての祭儀がキャンセルとなった2020年も Labuhan は無病息災を祈って実施された（krjoga 2020）。この儀礼がいかに重要であるかと証明するものである。

## 2. 2. 建国神話と Ratu Kidul

東南アジアでは一般的に水と王権は深い関わり合いがある。そして、川や水に棲む蛇（Naga）が建国神話や王権に深く結びついている（Chandra 1995）。Ratu Kidul が、先行研究通り蛇の姿がオリジナルであるならば、まさしくこのフォーマットにのっとったものであるといえよう。

18世紀に完成したジャワの歴史書 Babad Tana Jawi は、古代神話の時代からジャワ国家、特にマタラムに焦点を当てて、創建、繁栄そして衰退を書き記したものである。その創建に関わる個所に Ratu Kidul が登場する。ストーリーは以下の通りである（深見 2013）。

16世紀頃、ジョグジャカルタ地方にマタラム国という小国があった。当時はソロカルタを中心に発達したパジャン王国が一带を支配しており、マタラム国はその支配下にあった。ある日 Senopati（セノパティ）というマタラム国

の王子が己がやがてジャワの王となるという予言を受け、ジャワ南海を臨む浜辺で祈願遂行の為瞑想を行った。するとその瞑想の威力によって海が荒れ出し、ジャワ海を総べる女王 Ratu Kidul が原因を見極めるために海底から現れた。Ratu Kidul は浜辺で瞑想している Senopati を認めると互いに恋に落ち、Ratu Kidul は彼と彼の子孫に服従を誓う。Senopati は女王に勧められるままに海底の Ratu Kidul の宮殿で夫婦として3日3晩を過ごす。Senopati がバジャン王国打倒の為地上に戻るとき、Ratu Kidul は国を総べる為の知識と自然を操る超能力を彼に授ける。彼がこの能力を使って地上に戻ると、それを目撃していた Sunan Kalijaga (スナン・カリジャガ) というイスラム教老師が、本当の王になるにはそのような力に頼るなと Senopati に忠告する。Senopati には国に戻り、父王からマタラム国を継ぐと、独立戦争を起こしバジャン王国を併合する。やがて次々とマタラム王国の領土を拡大して巨大な国家を作った。Senopati が戦うとき Ratu Kidul の見えない軍隊と霊的加護が常に彼を助けたという。そして Senopati の死後も Ratu Kidul はマタラム国代々のスルタン王を支援することとなった<sup>8</sup>。

この建国神話と似通った物語を、世界の各地で見ることができる。多くの場合ではヒロインとなる女性が偉大なる英雄や神と恋に落ち、新たな国を統べる能力を受け継ぐ優秀な子孫を生み出す。例えば古事記や日本書記に伝わる山幸彦と海幸彦神話では、山幸彦（火遠理命）と海神の娘豊玉毘売命の子供は神武天皇の親である<sup>9</sup>。しかしながら Ratu Kidul はそれとは異なり、Senopati と夫婦

---

8 Senopati とムラビ山も密接な関係がある。Benigno Balgos はジョグジャカルタに伝わる話を以下のように紹介している。Ratu Kidul は、マタラム王国の建国者 Senopati に二人の愛情の印として卵を与えた。Senopati の忠臣 Sapu Jagad とは、しかしながら Senopati が食するのは危険であると考え、代わりに卵を食べてしまった。すると、この忠臣は人知を超えた精霊に変身してしまう。Senopati は、長い間この霊が棲む場所を探し続けた結果、ムラビ山が最もふさわしいと考えた。以降この精霊はムラビ山の保護者となったのである。(Balgos 2013:184)。

9 山幸彦と海幸彦のように釣り針喪失をモチーフとする神話や伝承は、東アジアや太平洋ミクロネシアを含み広範囲に伝わっている。

関係になろうとも子供を成すことはなかった<sup>10</sup>。従って、Ratu Kidul からの援助を得る為に及び自然を総べる王の資格を得る為に、スルタン達は代々 Taman Sari で Ratu Kidul と繋がりを持ち、年に一度 Labuhan の儀礼により加護を祈願するのである。

又、山幸彦と海幸彦神話では、主人公山幸彦を導く老師は海から現れ山幸彦に対して海神のもとへ行くようにアドバイスをする。老師は海に属する神であり海神の指示によって動いたことが示唆される。一方、Babad Tana Jawi のこの Senopati では Senopati が地上に戻ってからイスラム教の老師が現れる。老師が Ratu Kidul が支配する海に属する精霊ではないことは明白である。老師は Senopati に Ratu Kidul の能力を使うなと忠告することで精霊信仰を否定するのである。

Ratu Kidul と Senopati の物語はイスラム教の影響が大きいであろう。このイスラム教の老師 Sunan Kalijaga は、インドネシアやジャワで非常に有名な人物である。彼はインドネシアへのイスラム教布教に重要な役割を果たしたといわれる9人の聖者のひとりである。又、彼のみがメッカの方向を神意を持って正しく定めることができた（深見2013 47:338-339）と言われており、聖人のなかでも特に権威が高いことが想像できる。従って、Senopati が Ratu Kidul と結婚し子孫を得なかつたこと、そして Sunan Kalijaga の指示に従い Ratu Kidul から授かつた能力を使わなかつたことは、Senopati から始まるスルタン達と国家が土着精霊よりもイスラム教を重用する（或いはすべき）ことを示唆している。ただし Senopati にとっても代々のスルタン達にとって Ratu Kidul の加護も必須であり、従って完全に廃棄することはできない。

---

10 Senopati には Raden Rangga という長男がいるがあまり語られることはない。Raden Rangga は実は Ratu Kidul と Senopati との子であるという説がある (Basyaruddin 2009)。但し Babad Tana Jawi にはそのような記載はなく、北の都市国家の血筋である妻から生まれた子であるとしている。いずれにせよわざわざ数行に語られた Raden Rangga のまつわる記述によると、Raden Rangga は秩序を錯乱させる粗暴な面を持っており殺人を犯すこともあった。それを恥じた彼は汚名返上の為人々を脅かす大蛇と戦ったが相打ちで死亡したという。Raden Rangga はトリックスターの性格を持つスサノオやインドラとは異なり、英雄とはなれず、人々の記憶から歴史書の記載から消えていく。Ratu Kidul との子供であったとしてもここで Ratu Kidul との血筋は途絶えることになる。

Senopati はジャワの正統な王となる為、軍事強化はもとより様々な手段を使ったと思われるが、その代表的な例が結婚である。彼は Ratu Kidul 以外に何人かのイスラム王国の王女や息女と結婚している (De Graaf and Pigeaud 1974: 90-91, 231) が、どういった女性達なのか Babad Tana Jawi には詳しい描写がない。結婚相手がどの血筋にあるか、どこの国の息女であるのが短く記載されているのみである。つまり結婚とは、Senopati にとっては良き血筋と君主継承権を得る目的で行うものであり、それは王国の領土拡大と、同盟国の増加、そして Senopati 自身の王権を正当化する為の手段に他ならない。Ratu Kidul との結婚も、これによって彼自身を神聖化することに成功している。そして今日 Ratu Kidul と Senopati の物語は今に伝わる神話となり、二人が出合った場所は聖地となっているのである。

## 2. 3. ジャワの村の人々と Ratu Kidul

ジャワの王宮が Ratu Kidul への独自の信仰形態を続けている一方で、ジャワ南海岸のコミュニティでも大漁を祈願し生活基盤を万全とするために、パラントゥリティス海岸周辺を含む複数の箇所で Ratu Kidul に対する Labuhan 儀礼を各村ごとに実施している。例えば、ジャワ島で唯一港がある Cilacap という町では毎年船渡御のような奉納儀式が行われる (Tempo 2011)。又 Baron というパラントゥリティス海岸に近い浜辺では、人々が集まってヤギの頭、様々な食べ物や衣類を海へ投げ込み祈祷を行い、共食をする。この儀礼も王宮と同様に、今年 COVID-19 の影響により参加人数を減らしながらも実施された (Tribun Jogja 2020)。更に燕の巣の採集で有名なジャワ島南海岸沿いにある Karang Bolong という名の小さな村でも、Ratu Kidul は特別な役割を担っている。彼らは採取を行う一日前に、Ratu Kidul からの採集の許可を求めて特別な儀式を行う。まず水牛が供物として用意され、人々が共に Ratu Kidul に祈りを捧げ水牛を供食する (Liputan 6 :2005)。その後影絵芝居 Wayang Kulit を行うのだが、この芝居なかで“死”というものは忌避されている。死亡するキャラクターは登場せず又死者を扱ったストーリーは扱われない。この不文律を守らな

ければ、燕の巣を採集する者の無事は保証されないと信じられている (Facebumen.com:2016)。漁民にとって、Ratu Kidul は海の恵みを彼らにもたらす絶対的存在である。その恩恵を受領するために彼らは毎年定期的に儀礼を行う必要がある。言わば、Ratu Kidul へのアクセス権限を儀礼というプロセスによって毎年更新しているのである。

儀礼を介して、彼らの日常生活の基盤となっている価値観をうかがい知ることができる。それは安全保護であり大漁祈願である。そして儀礼はコミュニティ全員が参加しなければならない。人々は一か所に集まり供物を準備し祈りを唱え、彼等で用意した祝祭用の食事を共食する。儀礼を介してコミュニティメンバーは“一体化”するのである。これはスルタンと Ratu Kidul の個人的契約の更新を目的とする王宮主催の Labuhan 儀礼では決して見られない側面である。儀礼や供物が Ratu Kidul の定める評価基準に達しない場合、それはファイナンスリソースの喪



写真1 (筆者撮影)

失となり彼らの死活問題に直接繋がることを意味する。従って、儀礼が非常に重要となっているのは至極当たり前のことである。

日常におけるパラントゥリティス海岸でも人々の信仰を垣間見ることができ。2018年筆者がパランクスモ岩を訪れたのは平日の昼間であった。パランクスモ岩を囲む堀の扉の前で、人々が管理者に供物と花そして依頼料を渡していた。そして、人々は順々に管理者と共にパランクスモ岩の前でひざまずき Ratu Kidul に祈りを捧げていた (写真1)。

筆者は、そこでパランクスモ岩の管理者である Surasko Maryanto さんと直接話を聞くことができた。彼によると、パランクスモの管理業務は王宮勤めのいわば公務員職で、代々この職を受け継いでいるとのことである。彼らは日々、

ここを訪れる人々の祈願を聞き、人々と共に Ratu Kidul に対して祈っているのだという。人々の祈願の多くは、家内安全、出産安産、商売繁盛、諸災消除などであり<sup>11</sup>。祈祷する人々の数は毎日絶えないと Maryanto さんは言う。又、Maryanto さんによれば、ジャワ歴の35日毎に訪れる Jumat Kliwon の日は精霊のパワーが最大になると言われており、Jumat Kliwon そしてジャワ歴の1月及びイスラム教の祝日には、パランクスモ岩を中心に特別な祈祷が行われる。こういった特別なハレの日には、大勢の人々が祈祷依頼や観客としてパラントゥリティス海岸を訪れるという。大規模な儀式を定期的に行うことで、不浄が祓われるばかりではなく、Ratu Kidul 信仰も継続されていくのである。

### 3. 変貌する Ratu Kidul

#### 3. 1. 再構築される Ratu Kidul

Ratu Kidul は上記で述べたように自然精霊である。しかしながら、あるきっかけとなって近年異なる容貌をインドネシア国内に知らしめるようになった。そのきっかけとはホラー映画である。

1970年代から90年代にかけてインドネシアはスハルト大統領の体制下にあった。この政権は映画製作に対し厳しい検閲基準を設け、表現の自由及び政府の許可なしで映画を撮ることを禁止した。更に映画製作において、“インドネシアの統一”、“唯一神への信仰”、“社会的公正”を含むことを要求した (Van Heeren 2012: 139)。こうしたガイドラインのもと、インドネシアの映画産業が検閲にかからない為に制作した手段方法のひとつがホラー映画であった。

表1はインドネシア国内で劇場公開された Ratu Kidul を主題とした映画をリスト化したものである。最初に Ratu Kidul が主人公として登場する映画は1979年公開の“Kutukan Nyai Roro Kidul”である。その後約15年間で7本の Ratu Kidul 映画が作成されている。又、記録によると“Kutukan Nyai Roro

---

11 パランクスモにほど近いところにあるイモギリというマタラム王家の墓がある丘は、パランクスモ同じく神聖の場所である。この丘も祈祷を目的とする参拝客でにぎわっている。イモギリ入場には、小浄、正装及び素足が必須である。

表 1 (http://filmindonesia.or.id/ より検索)

タイトル	年	監督	Ratu Kidul の役割
Kutukan Nyai Roro Kidul	1979	BZ Kinaryono	悪霊として登場。存在を否定し擲擧している人々を殺害する。
Ratu Pantai Selatan	1980	Ackyl Anwari	娘を助ける為に黒魔術師と対決する。
Bangunnya Nyi Roro Kidul	1985	Sisworo Gautama	男性を誘惑し殺害をする。その一方で犯罪組織から村を守る。
Pembalasan Ratu Laut Selatan	1988	Tjut Djalil	人間の女性に憑依し悪霊として男性を次々に殺害する。
Ajian Ratu Laut Kidul	1991	S Gatra	黒魔術を使う一族に全てを奪われた女性を支援し一族に復讐をする。
Susuk Nyi Roro Kidul	1993	Azwar AN	Ratu Kidul の能力を欲して黒魔術を使った女性と対決する。
Dewi Angin-Angin	1994	Ackyl Anwari	魔導士達と対決する主人公を支援する。

Kidul”は10.2万人、1980年公開の“Ratu Pantai Selatan”は15万人の観客を呼び (Pusat Data dan Analisa Tempo 2019)、更に1991年公開の“Ajian Ratu Laut Kidul”に至っては25万人の観客数となり、その年の公開映画で観客動員数のベスト5になっている (Merdeka 2012)。

“Kutukan Nyai Roro Kidul”とは、「南海の女王の呪い」を意味する。ストーリーは、Ratu Kidulがその存在を否定し擲擧している人々を次々に殺害していくというものである。この映画ではKyaiと呼ばれるイスラム教指導者が登場する。この物語は、Ratu Kidulが清廉潔白なKyaiと対決し敗北するところで終わる。このストーリーから考えられることは、“Kutukan Nyai Roro Kidul”はイスラム教を正しい“唯一神への信仰”としてプロパガンダするもので。そして、Kyaiに敗北するRatu Kidulは退治されるべき悪霊に他ならない。

興味深いことに、表1にて“Kutukan Nyai Roro Kidul”以外でRatu Kidulが完全な悪霊となっているのは、“Pembalasan Ratu Laut Selatan (南海の女王の復讐)”のみである (Wessing 2007:541)。他の映画、例えば“Bangunnya Nyi Roro Kidul (Roro Kidulの目覚め)”では、Ratu Kidulは海岸沿いにある村に現れ、自分を誘惑する男性を殺害し人々を恐怖に陥れるが、その一方で強盗犯罪組織

に襲われた人々を救っている。又、“Ajian Ratu Laut Kidul（南海の女王の呪文）”では、黒魔術を使う一族に全てを奪われた女性を支援する為、彼女に憑依し一族全員を殺害している。つまり、いくつかの映画では黒魔術を使う人間及び不正を働く人間を罰する役目を担っており、Ratu Kidul は人々に“社会的公正”を示す為にスハルト体制側に組み込まれたツールとも考えられる。

1990年半ばから外国映画の輸入再開と経済危機によりインドネシアの国際映画製作は衰退し Ratu Kidul の映画も消滅する。再びスクリーンに戻ったのは、2014年に公開された“Nyi Roro Kidul Project”である。映画としての評判や質は高いものではないが、留意すべきことは、この映画では Ratu Kidul への信仰は異端とみなされており、Ratu Kidul を信仰する者達は虐殺されていることである。そして虐殺された人々の霊が悪霊となって主人公達を襲い、“Kutukan Nyai Roro Kidul”のように Kyai が登場することもなく、結局主人公達は全員死亡し Ratu Kidul の世界に囚われて終わる。

今日、Ratu Kidul が精霊 Siluman ではなく悪霊の Hantu であるというイメージは一般社会で次第に強くなっているようである。2018年にジョグジャカルタを訪れた際、Ratu Kidul に関して人々に聞いてみたところ、Ratu Kidul は恐ろしい幽霊である、以前ホラー映画で見たから。という回答があった。かつてのマタラム王国中心地であったジョグジャカルタにおいてでも、自然を超越する存在として王国を保護する Ratu Kidul の姿は消えつつあるのではないだろうか。

### 3. 2. イスラム化する Ratu Kidul

近代主義のイスラム指導者或いはイスラム原理主義者といった人々は Ratu Kidul をどのように捉えているのだろうか。両者とも Ratu Kidul の信仰は認めない方向を示しているが、対応に若干の差異が認められる。まず、イスラム原理主義者にとっては Ratu Kidul は排除すべき対象となっている。精霊信仰や民間信仰の儀式や風習は妥協であり、妥協は墮落と敗北をもたらすと見なしているからである。例えば、西部ジャワにあるプルワカルタ地方の知事が



Ratu Kidul と結婚しようとアクションを起こしインドネシア国内のマスコミを賑わせたことがある。彼は、ジョグジャカルタのスルタンのように自然精霊に帰依し近代社会と調和をもたらしたいという意図があったようだが、この行為はジャワで様々な反発を招いた。特に強烈な言葉で知事を批判したのが、アラブ系イスラムの急進派 Front Pembela Islam (FPI) の当時のリーダー Habib Rizieq であった。Habib Rizieq は元々ジャワの独自文化を貴ぶ知事に対して嫌悪を露わにしていたが、Ratu Kidul との結婚に関しても非常に強い口調で Gila (クレイジー) であると糾弾した (Okzone 2015)。

一方、Ratu Kidul をイスラムの枠組みに取り込もうとする動きもある。数年前、マルク州のスルタンがハッジ巡礼に参加した際、そこで Ratu Kidul を目撃したという話がオンラインニュースメディアに掲載された (Merdeka 2014)。このとき Ratu Kidul は、緑のジャワ伝統服ではなくイスラム礼拝用の白い服装とヒジャブスカーフを身につけていたという。つまり、Ratu Kidul はイスラム教にコンバートし、ハッジ巡礼に参加していたことになる。Ratu Kidul のイスラム化は "positif (ポジティブ)" な影響を社会に与えるとこの記事は歓迎の意を示している。実際、筆者が2018年ジョグジャカルタを訪問した際お世話になったローカルガイドの方は Ratu Kidul はイスラムの良き Jinn (ジン) であると解釈していた。ただ、実際のところ Ratu Kidul がイスラムに帰依したという正式なアナウンスは今日までなされていない。

インドネシア、特にジャワで活発なイスラム原理主義活動が今後より一層活発になり、寛容な宗教性を失っていくならば、Ratu Kidul への信仰はいずれは社会から異端とみなされる可能性がある。そうなれば、Ratu Kidul は映画 "Nyi Roro Kidul Project" で見られるようにイスラムと対立する悪霊とみなされるであろう。もし Ratu Kidul が正式にイスラムに帰依したと認識されれば、良き Jinn (ジン) となるであろう。ただそれは Ratu Kidul がイスラム教に完全に組み込まれることを意味し、ジャワ伝統服を好む自然精霊としての Ratu Kidul は抹殺されることになる。Ratu Kidul 信仰は今後どうなるのかは不透明となっており、特にジャワ南海岸の人々の Ratu Kidul に対する意識調査と分

析が必要である。

#### 4. Ratu Kidul への恐怖とは何か

最後に Ratu Kidul に抱く恐怖という感情について考察を試みる。Ratul Kidul に対して人々は「恐ろしい」というが、その言葉には様々な想念が含まれている。まずは Ratu Kidul を自然精霊とみなして抱く畏怖である。ジャワ島南海岸の人々は各々の祈願を成就する為に定期的に Ratu Kidul へ供物を伴う儀礼を行うが、更に生活が脅かされる重大な事態が発生後した際も Ratu Kidul への供物儀礼が要求されているようである。海を源とする自然災害や疫病の発生すると、彼らの財源のみならず生命が直ちに危険にさらされる恐れがあるからである<sup>12</sup>。そしてそれは永い間培っていたジャワの人々の知識や経験をもっても絶大な王の能力をもってしても、いつどのように発生するかは、今でも予測することはできない。人間を圧倒する自然への畏れが Ratu Kidul への信仰を生み、そして育てたのであろう。

次に Ratul Kidul を死を司る冥界の女王とみなし、それ故に恐ろしいと思う想念である。パラントゥリティス海岸は波が激しく高波にさらわれる恐れがあるため、政府はこの地帯一帯を遊泳禁止としている。しかしそういった注意喚起にも関わらず、サーフィンやスイミングを楽しんでいる人々が大勢いる。当然のように水難事故も発生するが、地域の住民によると、それは Ratu Kidul が生贄を求めているからだという (Tribun Jambi :2016, Liputan 6 :2017)。又、バラクスモを守る Maryanto さんに話を聞くと、Ratu Kidul は人間が緑色の衣服を着て海岸に赴くことを許さないという。それはタブーであり侵犯すると、Ratu Kidul の怒りのターゲットとなり海に引きずり込まれ溺死する。Maryanto さんによると、事故を含め溺死した人々の魂は女神の海底にある王宮に永遠に留まり、遺体として見つかることはないという。

---

12 1946年中部ジャワでベストが流行した際、この疫病は Ratu Kidul の怒りが原因で海からもたらされたと噂された。現王の父であるハメンク・ブウォノ9世 (Hamengku Buwono IX) は1週間もの間瞑想と、Ratu Kidul への儀礼と供物を続けたと言われている (中島1993:36)。

このように Ratu Kidul が残酷な冥界の支配者ともみなされている根本的要素に1965年の9.30事件があると思われる。9.30事件とは、スハルトと軍によってクーデターを主導したインドネシア共産党の関係者そして疑いがかけられた大勢の人々が逮捕され虐殺された事件である。殺害された共産主義者の遺体はジャワ島の南海岸に運ばれ海に投げ込まれた (Strassler 2014:107)。そして虐殺された人々の遺体も今日まで発見されていない。9.30事件が発生したこの夜、Ratu Kidul の軍隊が疾走する音がジャワ南海岸周囲に鳴り轟いたといわれており (Strassler 2014:107)、当時周辺の人々は、事件と Ratu Kidul は深い関わりがあると考えていたと推測できる。この認識が、時の経過とともにジャワの南海や Ratu Kidul と死は繋がっているという概念に変化していったのであろう。

更に Ratu Kidul に対し脅威という恐怖の感情を抱いている人々もいる。Ratu Kidul の存在を認めない人々である。Van Heeren によると、かつて政府関係者や敬虔なムスリムによって、Ratu Kidul 等を題材とする映画は「社会にとって障害物」(Van Heeren 2012:142-143) であるとするネガティブキャンペーンが展開された。彼らは Ratu Kidul のような存在は、迷信 (Van Heeren 2012:143) であるとみなし、「非合理的であり教育的価値もなくインドネシアの人々にとって害悪」(Van Heeren 2012:143) であり、従って存在しないものをスクリーンを使って人々に見せることは迷信に対して信仰を増やす恐れがある、と主張した。今日でも近代主義のイスラム指導者或いはイスラム原理主義者は、同様の認識を Ratu Kidul に対して抱いているといえよう。Ratu Kidul の存在自体が、彼らが目指すインドネシア社会の構築にとって脅威そのものに他ならないのである。そして脅威という恐怖を排除する為に、多くのイスラム宗教者が Ratu Kidul に対する信仰を止めイスラム信仰に従うよう人々を教化しているのではないだろうか。

## 終わりに

Ratu Kidul は Siluman という自然精霊である。ジャワ島南海岸地方でその信仰は現在でも続いているが、近年死を司る存在又映画では悪霊という役目も担

うようになった。今後イスラム原理主義の台頭と共に今後この信仰がどうなるのか、若い人々は Ratu Kidul についてどのように認識しているのか調査を進めていく。インターネットを使った学術調査そして渡航が可能になり次第海外調査を進め考察と論文を進めていきたい。

### 参考文献一覧

- 青山 亨(2005).「南海の女王ラトゥ・キドゥル - 19 世紀ジャワにおけるイスラムをめぐる文化的表象のせめぎあい」,『総合文化研究』 no. 8 :pp35-58
- 大林 太良 (1985)『シンガ・マンガラジャの構造』 青土社
- 土屋 健治 (2008) .「ニヤイ・ロロ・キドゥルの海—東南アジアの「荒ぶる海」考」梅原猛, 伊東俊太郎, 安田喜憲 (編)『講座文明と環境』 第10巻, 朝倉書店
- 中島 成久 (1993).『ロロ・キドゥルの箱—ジャワの性・神話・政治』 風響社.
- 深見純生訳 (2013) .「ババッド・タナ・ジャウイ」,『国際文化論集』 48:pp135-160, 49:pp231-258 47: pp335-357
- Anwar, Salman Rusydie (2010) , *Misteri Nyi Roro Kidul dan Laut Selatan*. Yogyakarta: Flashbooks
- Balgos, Benigno C. (2013) “Collective Memories, Jargons, Rituals and Perception” in *Culture, power and practices: the globalization of culture and its implications for Asian regional transformations*. Bangkok: The Nippon Foundation, 180-191.
- Basyaruddin, Siregar (2009) *Legenda Dibalik Kawasan Parangtritis*. Jakarta: Precision Printing
- Brakel, Clara (1997) “Sandhang-pangan for the goddess: Offerings to Sang Hyang Bathari Durga and Nyai Lara Kidul”. *Asian Folklore Studies* 54: 253-83.
- Bräunlein, Peter J. (2016) *Ghost Movies in Southeast Asia and Beyond*, Leiden: Brill,

- Briggs, L.P. (1951) . *The Ancient Khmer Empire*, Philadelphia: The American Philosophical Society
- Bubandt, Nils (2012) . "A Psychology of Ghosts: The Regime of the Self and the Reinvention of Spirits in Indonesia and Beyond", *A Journal of Social Anthropology and Comparative Sociology* 22 ( 1 ) : 1–23
- Chandra, Lokesh (1995) "Nyai Kara Kidul: Goddess of the South Sea" in *Cultural Horizons of India*, Vol. 4 , New Delhi: International Academy of Indian Culture, 198–204
- De Graaf, H., & Pigeaud, T. (1974) . *De eerste moslimse vorstendommen op Java: Studiën over de staatkundige geschiedenis van de 15de en 16de eeuw*. Brill.
- Facebumen.com (2016 Jan/ 2) , "Mitos di Pantai Karang Bolong Kebumen" Accessed Aug 20 2019 from, <http://facebumen.com/mitos-di-pantai-karangbolong-kebumen/>
- Fischer, Joseph (1994) . *The Folk Art of Java*. Kuala Lumpur, Malaysia: Oxford University Press
- Florida, Nancy (1992) . 'The Badhaya Katawang: A Translation of the Song of Kanjeng Ratu Kidul', *Indonesia* 53: 21–32
- Heeren, van Katinka (2012) . *Contemporary Indonesian Film: Spirits of Reform and Ghosts From the Past*. Leiden: KITLV Press Leiden.
- Jordaan, R.E. (1984) . "The Mystery of Nyai Lara Kidul", *Archipel*, vol.28: 99–116
- Koentjaraningrat, R. M (1985a) ."Javanese term for the god and supernatural beings and the idea of power" in *Readings on Islam in Southeast Asia*, A. Ibrahim et al., eds., Singapore: Institute of Southeast Asian Studies, 286–292
- Koentjaraningrat, R. M (1985b) , *Javanese Culture*, Singapore: Oxford University Press.
- Krjogja.com (2020 Mach /25) , "Labuhan Jaladri, Berharap Yogya Terbebas dari Bencana" cfrom <https://www.krjogja.com/berita-lokal/diy/yogyakarta/labuhan-jaladri-berharap-yogya-terbebas-dari-bencana/>

- Kumar, Ann (2000) . “Imagining Women in Javanese Religion: Goddesses, Ascetes, Queens, Consorts, Wives”, in Andaya, Barbara Watson (ed.) , *Other Pasts: Women, Gender and History in Early Modern Southeast Asia*, Hawaii: University of Hull, pp. 87–104.
- Liputan 6 .com (2005, March/26) , “Memanen “Harta” Nyi Roro Kidul”, Accessed Oct10 2020 from, <https://www.liputan6.com/news/read/98373/memanen-ampquotahartaampquot-nyi-ro-ro-kidul>
- Liputan 6 .com (2017, May/12) , “Membongkar Mitos Nyi Roro Kidul di Pantai Garut”, Accessed Feb 15 2018 from, <https://www.liputan6.com/regional/read/2960198/membongkar-mitos-nyi-ro-ro-Kidul-di-pantai-garut>
- Merdeka (2012, May/ 4) “Nyi Roro Kidul, film dan sensualitas”, Accessed Nov 10 2020, from <https://www.merdeka.com/peristiwa/nyi-ro-ro-kidul-film-dan-sensualitas.html>
- Merdica (2014 Oct/ 6) ”Panggil saya Hajjah Siti Syarifah”, Accessed Dec 15 2020 from <https://www.merdeka.com/khas/panggil-saya-hajjah-siti-syarifah-jati-diri-nyi-ro-ro-kidul-3.html>
- Negoro, Suryo S. (2001) . *Upacara Tradisional dan Ritual Jawa*, Surakarta: Buana Raya
- Okzone.com (2015 Nov/27) , Ceramah di Purwakarta, Habib Rizieq: Ada Bupati Kawin Sama Nyi Roro Kidul, Accessed June 26 2018 from <https://news.okezone.com/read/2015/11/27/525/1257145/ceramah-di-purwakarta-habib-rizieq-ada-bupati-kawin-sama-nyi-ro-ro-Kidul>
- Pusat Data dan Analisa Tempo (2019) , *Sejarah Film Horor Tempo Doeloe Indonesia*, Tempo Publishing
- Resink, G. J. (1997) . “Kanjeng Ratu Kidul: The Second Divine Spouse of the Sultans of Ngayogya karta,” *Asian Folklore Studies* 56, 2 : 313–17
- Ricklefs, M.C. (1974) . *Jogjakarta under Sultan Mangkubumi 1749–1792*, London: Oxford University Press.

- Ricklefs, M.C. (2007) . *Polarizing Javanese Society*, University of Hawaii
- Sochaczewski, Paul Spencer (2010 June/25) . “The Sultan and the Mermaid”, New York Times, Accessed Dec 10 2017, from <http://www.sochaczewski.com/2010/06/25/the-sultan-and-the-mermaid-queen-2/>
- Strassler, Karen (2014) . “Seeing the Unseen in Indonesia’s Public Sphere: Photographic Appearances of a Spirit Queen”, *Comparative Studies in Society and History*, Vol.56/ 1 : 98–130
- Tempo (2011 Dec/23) , “Mitologi Nyai Roro Kidul dalam Ritual Sedekah Laut”, Accessed April 18 2018, from <https://travel.tempo.co/read/373447/mitologi-nyai-ro-ro-kidul-dalam-ritual-sedekah-laut>
- Tribun Jambi (2016 Mar/ 6 ) , “Santri yang Hilang Ditelan Laut 'Nyi Roro Kidul' Ditemukan Mengapung Tanpa Kepala”, Accessed Feb 15 2018, from <http://jambi.tribunnews.com/2016/03/06/santri-yang-hilang-ditelan-laut-nyai-ro-ro-kidul-ditemukan-mengapung-tanpa-kepala/>
- Tribun Jogja (2020 Sep/29 ) , “Pertahankan Tradisi, Labuhan Pantai Baron Tetap Digelar Meski Pandemi”, Accessed Oct 16 2020 from <https://jogja.tribunnews.com/2020/09/29/pertahankan-tradisi-labuhan-pantai-baron-tetap-digelar-meski-pandemi>.
- Wessing, R. (1997a) . “A Princess from Sunda”, *Asian Folklore Studies*, Vol. 56: 317–353
- Wessing, R. (1997b) . “Nyai Roro Kidul in Puger”, *Archipel*, Vol.53: 97–120
- Wessing, R. (2007) . “Dislodged tales: Javanese goddesses and spirits on the silver screen”, *Bijdragen tot de Taal-, Land en Volkenkunde*, Vol.163: 528–55.
- Woodward, M. (2010) . *Java, Indonesia and Islam*, New York: Springer
- Zoetmulder, P.J. (1982) . *Old Javanese-English Dictionary*. 's-Gravenhage

## Film

- “Kutukan Nyai Roro Kidul” (1979) <https://www.facebook.com/Kopi.Margonet/>

videos/kutukan-nyai-ro-ro-kidul-indonesia-jadul-1979/273218753580432/  
“Bangunnya Nyi Roro Kidul” (1985) [https://www.dailymotion.com/playlist/x\\_6yqay](https://www.dailymotion.com/playlist/x_6yqay), [https://www.dailymotion.com/video/x\\_7y0yab?playlist=x\\_6yqay](https://www.dailymotion.com/video/x_7y0yab?playlist=x_6yqay)  
“Ajian Ratu Laut Kidul” (1991) [https://www.dailymotion.com/video/x\\_7y02nu](https://www.dailymotion.com/video/x_7y02nu),  
[https://www.dailymotion.com/video/x\\_7y02i7](https://www.dailymotion.com/video/x_7y02i7)  
“Susuk Nyi Roro Kidul” (1993) [https://www.youtube.com/watch?v=mFlps\\_2CHF3I](https://www.youtube.com/watch?v=mFlps_2CHF3I)  
“Dewi Angin-Angin” (1994) <https://www.youtube.com/watch?v=F6VUpruAI34>



# Hantu in Java, Indonesia: Outline and Transformation of Nyai Ratu Kidul

Yuko Miyazaki

The purpose of this article is discussing and examine Nyai Ratu Kidul, one of “Hantu” in Java, Indonesia. “Hantu” is Indonesian and can be translated as Ghost or Specter in English. However, in reality “Hantu” indicates various unnatural beings, such as fiends, spirits, dead souls, or apparitions. Basically, “Hantu” in Indonesia can be classified as 2 -types; spirits or evil ghosts. And Nyai Ratu Kidul is the most prominent spirit in Java.

Nyai Ratu Kidul means the Queen of the South and this spirit has been living in the South Sea of Java Island. She is well known as the spiritual patron of kings of Mataram dynasty which established in 16th century in the central Java. This legacy still continues even today as the hereditary kings of Yogyakarta have been holding ceremonial offering to the queen annually. In additional to this, Nyai Ratu Kidul is also closely associated with the local people. They regularly offer gifts to the Queen, accordingly, they shall receive good catch or family well-being in return.

However, Nyai Ratu Kidul is also regarded as a ghost these days. And the Queen nowadays affrights people since she is closely related to death. This notion is largely spread among the people owing to the movies that featured her as an evil ghost. Also, it should be considered that the denial of animism, the male-centered ideology and/or the social traumas might cause this notion. Today, Nyai Ratu Kidul is indeed has complex characteristics; she is a spirit and also an evil ghost. More investigations will be needed how people actually think about the queen and how the queen will be changed in future.